

NEWS RELEASE

平成28年12月19日

外務省

スポーツ庁

スポーツ・フォー・トゥモローコンソーシアム事務局
(独立行政法人日本スポーツ振興センター内)

スポーツを通じた国際貢献事業「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラム 189カ国・地域で1,270,305人が裨益

2016年9月末時点(2014年1月～2016年9月累計) スポーツ・フォー・トゥモロー活動実績

報道関係各位

外務省とスポーツ庁が主導し、日本スポーツ振興センター(JSC: JAPAN SPORT COUNCIL)が官民連携コンソーシアムの事務局を担う「スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)プログラム※1」の、2016年9月末まで(2014年1月～2016年9月)の実績・会員数を以下のとおり発表いたします。

■ 2016年9月末時点「スポーツ・フォー・トゥモロー」実績・会員数状況 (2014年1月～2016年9月累計)

・支援実施国・地域数 : 189カ国・地域

※地域内訳

アジア地域: 24カ国・地域 オセアニア地域: 15カ国・地域 北米地域: 4カ国・地域

中南米地域: 33カ国 中東地域: 16カ国・地域 アフリカ地域: 47カ国 欧州地域: 50カ国

・裨益者数 : 1,270,305人

・実施件数 : 2,050件

・会員数(2016年9月末時点) : 運営委員会 12団体※2 + 一般会員 225団体 = 237団体

これから2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会までの約4年間、益々スポーツ・フォー・トゥモローの活動を活性化させていきます。

スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムでは、コンソーシアム会員の募集や認定事業※3の促進など、今後も官民連携によるスポーツ分野での国際貢献を一層推進してまいります。
引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■ スポーツ・フォー・トゥモローホームページ
<http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>



SPORT
FOR
TOMORROW

◀ お問い合わせ先 ▶

外務省人物交流室 担当: 和田、水野、豊吉

〒100-8919 千代田区霞が関 2-2-1

TEL: 3580-3311(代表) FAX: 5501-8142

スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課 担当: 益永、森沢、平川

〒100-8959 千代田区霞が関 3-2-2

TEL: 03-6734-3954 FAX: 03-6734-3793

スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局 担当: 小川、東海林
(独立行政法人日本スポーツ振興センター内)

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 3-7-5 青山MSビル 7階

TEL: 03-6804-2776 FAX: 03-3403-1570

日本スポーツ振興センターは、SFTコンソーシアム事務局業務を担当しています。

1 スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)プログラムとは

- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催国として、2014年から2020年までの7年間で、開発途上国をはじめとする100カ国以上の国において、1,000万人以上を対象に、世界のよりよい未来のために、未来を担う若者をはじめ、あらゆる世代の人々にスポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げていく取組。外務省とスポーツ庁が連携し日本国政府が主導するプログラム。
- ・ このプログラムを、日本国政府として着実に実施していくことは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた我が国の国際公約の一つ。
- ・ 行政機関、関係団体、大学等が保有している知見の交換、各機関の連携協力を促進し、国際社会にスポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げていくことを目的に、スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム(SFTC)を形成している。

2 スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム運営委員会

- ・ 平成26年8月に発足し、以下12団体で構成されている。

<運営委員会構成団体>

- ・ 外務省
- ・ スポーツ庁
- ・ 国際協力機構(JICA)
- ・ 国際交流基金
- ・ 東京2020組織委員会
- ・ 筑波大学
- ・ 日本アンチ・ドーピング機構
- ・ 日本障がい者スポーツ協会
- ・ 日本オリンピック委員会
- ・ 日本スポーツ振興センター
- ・ 日本体育協会
- ・ ラグビーワールドカップ2019組織委員会

3 スポーツ・フォー・トゥモロー認定事業とは

- ・ オール・ジャパンで「スポーツ・フォー・トゥモロー」のムーブメントを促進していくことを目的に、スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムが、会員団体が実施する「スポーツ・フォー・トゥモロー」の趣旨に沿った活動を「スポーツ・フォー・トゥモロー認定事業」として認定するもの。
- ・ これまでの認定事業例
 - 野球大会を目指したネパール震災復興支援(NPO法人ネパール野球リーグラスの会)
 - ラオスにおける車いすバスケットボール促進事業(AAR Japan)
 - ナミビア卓球協会へ卓球普及のために中古道具を寄付(イルマソフト株式会社)
 - 今後におけるフライングディスク普及事業(日本フライングディスク協会)
 - Jリーグのユニフォームをスリランカの子どもたちへ!(公益社団法人日本プロサッカーリーグ)
 - ジャカルタ絆駅伝2017(毎日新聞社)
 - ラジオ体操 in HAWAII(アサツーディ・ケイ、NPO法人全国ラジオ体操連盟)
 - ガーナにおけるスポーツイベントの開催・スポーツ用具輸送(NPO法人Enije、商船三井等)